保存版

仙北市
地震防災マップ

■緊急時の連絡先　～いざというときの連絡先～

事件・事故	110番	火災・救急	119番	災害用伝言ダイヤル	171番

仙北市役所（災害対策本部）　総務課　TEL 43－1111
※通常時、緊急時、停電時ともに24時間通話できます。

■角館庁舎
角館町東勝楽丁19
TEL 54－2601

■田沢湖庁舎
田沢湖生保内字宮ノ後30
TEL 43－3271

■西木庁舎
西木町上荒井字古堀田47
TEL 47－3231

※緊急時用の番号です。停電時でも通話できます。

■安否情報の確認～災害用伝言ダイヤル・災害用伝言板の使い方～

地震などの災害時には、一般電話などがつながりにくくなります。災害時に家族や知人の安否確認ができるよう、非常時の連絡方法を覚えておきましょう。

○災害用伝言ダイヤル「１７１」

伝言の録音
171 → 1 → 被災した家の電話番号 → 伝言を入れる（30秒以内）
ガイダンス（説明）がながれます。
被災者は自宅の電話番号を、被災地以外の方は被災地の電話番号を市外局番からプッシュする。

伝言の再生
171 → 2 → 被災した家の電話番号 → 伝言を聞く
ガイダンス（説明）がながれます。
被災者は自宅の電話番号を、被災地以外の方は被災地の電話番号を市外局番からプッシュする。

※災害時（震度6弱以上の地震など）に開設されます。
※毎月1日、正月三が日、防災週間、防災とボランティア週間には、体験利用ができます。使い方を確認しておきましょう。

○携帯電話の災害用伝言板

ながれ
「伝言板にアクセス」⇒⇒「登録」

au(KDDI)
NTT ドコモ
ソフトバンク
WILLCOM(ウィルコム)
→ トップメニュー → 災害用伝言板

平成23年1月
秋田県仙北市

■防災マップとは

○地震防災マップとは

地震防災マップは、地震発生時に予測される震度分布図に、避難場所、病院などの防災に関する情報を表したマップです。自宅や学校、職場などで予測される震度や災害時の避難場所、家の安全性などを確認し、防災対策に役立てましょう。

○地震防災マップを利用して防災意識を高めよう！

巨大な地震が発生すると建物が倒壊する被害が発生するだけではなく、その建物や家具の下敷きになるなどの人的被害が生じます。また、道路や電気、ガス、水道などのライフラインが寸断され、火災が発生するなど、大きな被害に発展する恐れがあります。阪神淡路大震災では、犠牲者の約８割以上が住宅などの倒壊による圧死といわれています。大きな地震から人命や財産を守るためには、住宅などの耐震化が必要です。地震に備えるためには、地域で発生する恐れがある地震、建物被害などの可能性を充分に理解し、防災に対する意識を高めることが重要です。

○地震防災マップの内容

ゆれやすさマップ

「ゆれやすさマップ」とは、秋田県内陸部を震源とする地震（規模：マグニチュード7.2）が発生した場合に、市内各地域の地盤の状況から、地表のゆれやすさを震度として評価し、50mメッシュごとに表示した地図です。なお、ここで表示した震度は、地震の規模や震源からの距離に基づき予想される平均的な揺れの強さであり、地震の発生の仕方によって、ゆれはこの地図に示した震度より強くなったり、弱くなったりすることがあります。

想定地震は、内閣府防災担当「地震防災マップ作成技術資料」（平成17年3月）に基づき設定しています。

> 1896（明治29）年8月31日、仙北市南東部の秋田・岩手の県境付近（真昼山地）でマグニチュード7.2の「陸羽地震」が発生しました。この地震では、横手盆地東部の真昼岳西麓を中心に、5,792戸の全壊建物、209名(秋田県側205名、岩手県側4名)の死者が生じました(被害は宇佐美,1975による)。陸羽地震の際には、横手盆地の東縁に顕著な地震断層が現れました。仙北市内でも田沢湖町生保内東部や角館町白岩の山麓部で、山地側(東側)が最大で２m以上隆起し、水田や集落内に連続する低い断層崖（生保内断層、白岩断層）が生じています。この断層崖は，山側の地盤（上盤）が，平野側の地盤（下盤）に押し上がって生じた逆断層によるもので、現在でもこの際生じた崖が観察できる場所があります。「ゆれやすさマップ」では、この陸羽地震を発生させた「横手盆地東縁断層帯」が再び活動した場合を想定して、震度分布の推計を行いました。

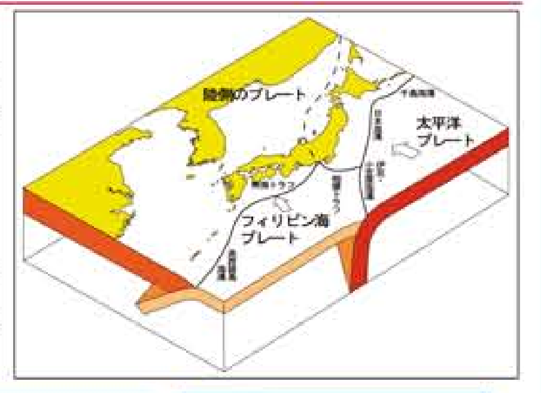
地域の危険度マップ

「地域の危険度マップ」とは、「ゆれやすさマップ」で示された地域ごとの震度や、建物の構造（木造・非木造の別）及び建築年次別の建物棟数の推計結果と、過去に生じた地震による建物の被害状況に基づく経験式から、50mメッシュ単位でメッシュ内の全壊する建物の割合（全壊率）を算出し、それを100mメッシュ単位に５段階で地域の危険度として示したものです。危険度が高い地域ほど、相対的に被害を受ける建物が多いことを示しています。

なお、実際には、地震に対する建物の強さは、個々の建物によって異なります。そのため、危険度が高い地域であっても、耐震性の高い建物は倒れにくく、反対に危険度が低い地域であっても老朽化の進んだ建物はより倒壊の危険性が高くなります。特に、建築されてから年数が経過した古い木造建物は、地震に弱い傾向がありますので、危険度が低い地域であっても、充分な注意が必要です。古い木造建築にお住まいの方は、耐震診断を受け、必要な場合は耐震改修工事を行うことをおすすめします。

■地震の知識

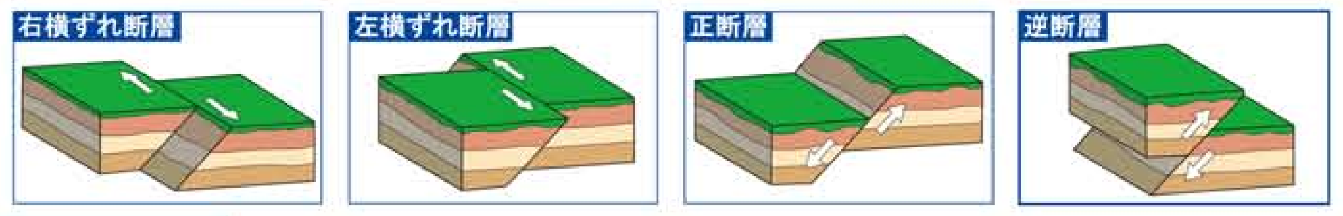
○地震の起こるしくみ



日本は、「陸側のプレート」と「太平洋プレート」、「フィリピン海プレート」の境界に位置しており、地震が多く発生する国です。地震の起こり方は、大きく「活断層型地震」と「海溝型地震」の２種類に分けられます。

活断層型地震

地下の岩盤に、押し合う力や引っ張り合う力が加わることでひずみのエネルギーが蓄積され、それが限界に達したときに、ある断層面を境に地盤がずれ動き、地震が起こります。

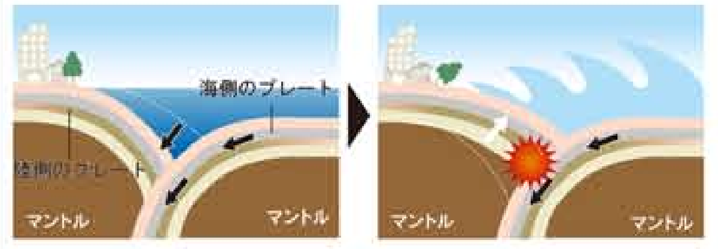


海溝型地震

海側のプレートが陸側のプレートの下にもぐりこむことで、境界にひずみのエネルギーが蓄積され、それが限界に達したときにプレートが元に戻ろうとしてはね上がり、地震が起こります。

「太平洋プレート」と「フィリピン海プレート」は、年間数cmの割合で「陸側のプレート」にもぐりこんでいます。

〔震度とマグニチュード〕
地震のエネルギーの大きさをマグニチュードと呼び、地面が揺れる大きさを震度と呼びます。マグニチュードが大きい地震でも、震源が遠い場合や深い場合は、震度が小さくなります。マグニチュードが１増えると、地震のエネルギーは約３２倍になります。したがって、マグニチュード8の地震は、マグニチュード7の地震の約32倍ものエネルギーをもった地震であるといえます。



○震度と想定される被害～震度による人や建物、家具などへの影響～

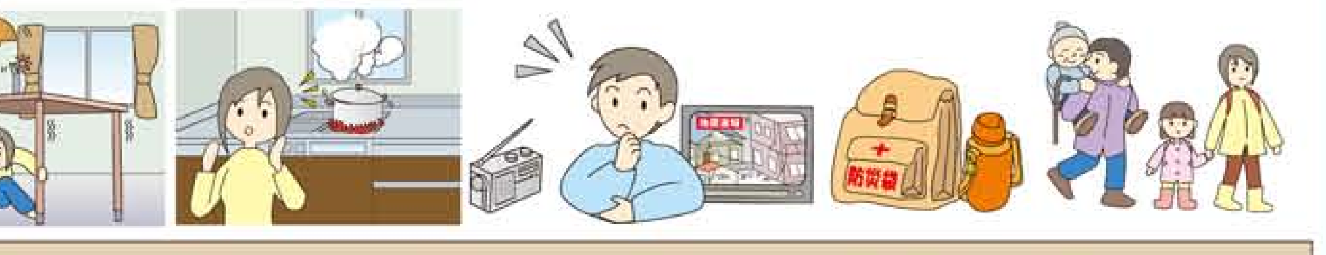
震度	人の体感・行動	屋内の状況	屋外の状況
0	人は揺れを感じないが、地震計には記録される。	－	－
1	屋内で静かにしている人の中には、揺れをわずかに感じる人がいる。	－	－
2	屋内で静かにしている人の大半が、揺れを感じる。眠っている人の中には、目を覚ます人もいる。	電灯などのつり下げ物が、わずかに揺れる。	－
3	屋内にいる人のほとんどが、揺れを感じる。歩いている人の中には、揺れを感じる人もいる。眠っている人の大半が、目を覚ます。	棚にある食器類が音を立てることがある。	電線が少し揺れる。
4	ほとんどの人が驚く。歩いている人のほとんどが、揺れを感じる。眠っている人のほとんどが、目を覚ます。	電灯などのつり下げ物は大きく揺れ、棚にある食器類は音を立てる。座りの悪い置物が、倒れることがある。	電線が大きく揺れる。自動車を運転していて、揺れに気付く人がいる。
5 弱	大半の人が、恐怖を覚え、物につかまりたいと感じる。	電灯などのつり下げ物は激しく揺れ、棚にある食器類、書棚の本が落ちることがある。座りの悪い置物の大半が倒れる。固定していない家具が移動することがあり、不安定なものは倒れることがある。	まれに窓ガラスが割れて落ちることがある。電柱が揺れるのがわかる。道路に被害が生じることがある。
5 強	大半の人が、物につかまらないと歩くことが難しいなど、行動に支障を感じる。	棚にある食器類や書棚の本で、落ちるものが多くなる。テレビが台から落ちることがある。固定していない家具が倒れることがある。	窓ガラスが割れて落ちることがある。補強されていないブロック塀が崩れることがある。据付けが不十分な自動販売機が倒れることがある。自動車の運転が困難となり、停止する車もある。
6 弱	立っていることが困難になる。	固定していない家具の大半が移動し、倒れるものもある。ドアが開かなくなることがある。	壁のタイルや窓ガラスが破損、落下することがある。
6 強	立っていることができず、はわないと動くことができない。揺れにほんろうされ、動くこともできず、飛ばされることもある。	固定していない家具のほとんどが移動し、倒れるものが多くなる。	壁のタイルや窓ガラスが破損、落下する建物が多くなる。補強されていないブロック塀のほとんどが崩れる。
7	立っていることができず、はわないと動くことができない。揺れにほんろうされ、動くこともできず、飛ばされることもある。	固定していない家具のほとんどが移動したり倒れたりし、飛ぶこともある。	壁のタイルや窓ガラスが破損、落下する建物がさらに多くなる。補強されているブロック塀も破損するものがある。

資料：「気象庁震度階級関連解説表」（平成21年3月31日改定）

■地震時の心得①

○地震発生時の行動

地震発生時は、あわてず、落ち着いて、身の回りの安全を確認しましょう。



地震発生	2分	5分	10分	数時間	3日（時間の目安）
身の安全	火の確認	家族の安全	避難の準備	救出活動	避難生活
落ち着く！ 身を守る！ 火を消す！	出口の確保！ 周囲の火の点検！ 屋内でも靴を履く！	余震注意！ 家族の安全の確認！ ラジオを聞く！ 持出品用意！	災害時要援護者の安否の確認！ ガス栓閉める！ ブレーカー切る！ 行き先メモを玄関に貼る！	消火活動！ 救出活動！ 家屋の倒壊など危険があればすぐ避難！	非常備蓄品で自給自足！ 市の広報に注意！ 地域のみんなで助け合い！ ルールを守って避難生活！

◆いざというときの助け合い　～自主防災組織～

大規模な地震災害が発生した場合、身の安全を自分だけで守るのには限界があります。地震直後に発生する火災の消火や、瓦礫に埋もれた人の救出など、いざというときは、隣近所の協力、助け合いが大切です。

自主防災組織は、地域の方々がお互いに協力し、災害から自分たちの地域を守るために結成される組織です。地震は、いつ起こるかわかりません。日頃から、近所同士が少しでもコミュニケーションを深めておくことが大切です。

阪神・淡路大震災では、救助された人のうち、家族や近所の人などに助け出された人は約7割でした。大地震の直後は、消防や自衛隊が駆けつけられないこともあります。自分たちの地域は自分たちで守れるようにしましょう。

○避難時の留意点

避難時は、余震に注意し、ケガをしないように落ち着いて避難しましょう。

火の元の確認
避難する前にもう一度、火の元を確認しましょう。

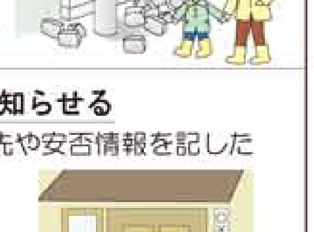
安全な服装
長袖、長ズボンなどの安全な服装で、建物のそばや細い路地を避け、徒歩で避難しましょう。

足元に注意
電柱、ブロック塀、ガラス、切れた電線などに注意しましょう。

階段から避難
避難時はエレベーターを利用せず階段から避難しましょう。

山崩れ、がけ崩れに注意
山間部で地震を感じたら、早めに避難体制を整えましょう。

安否情報を知らせる
玄関に避難先や安否情報を記したメモを張りましょう。

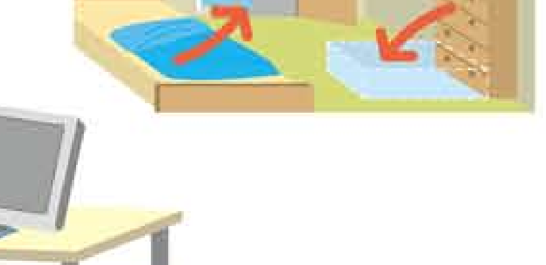


■地震への備え／わが家の防災メモ

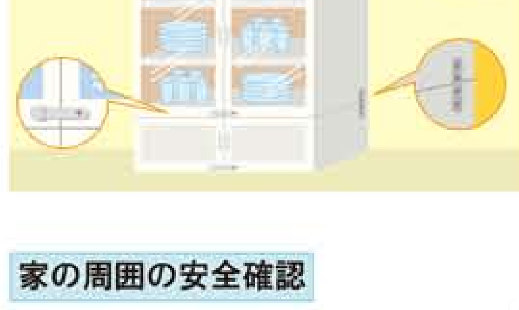
○被害を防ぐポイント

家の中の安全確認

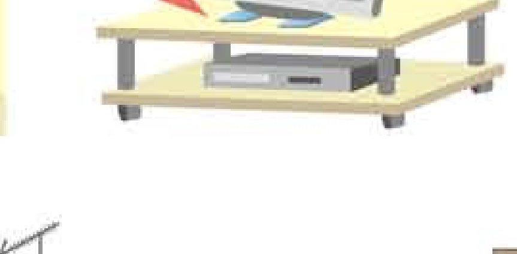
- 戸建住宅などの場合はできるだけ２階で寝るようにしましょう。
- 家具には、転倒防止金具を取り付けましょう。
- 部屋の入り口付近には物を置かないようにしましょう。
- テレビや置物などには、すべり止めを取り付けましょう。
- 食器棚、本棚などは、とめ金具を取り付けましょう。



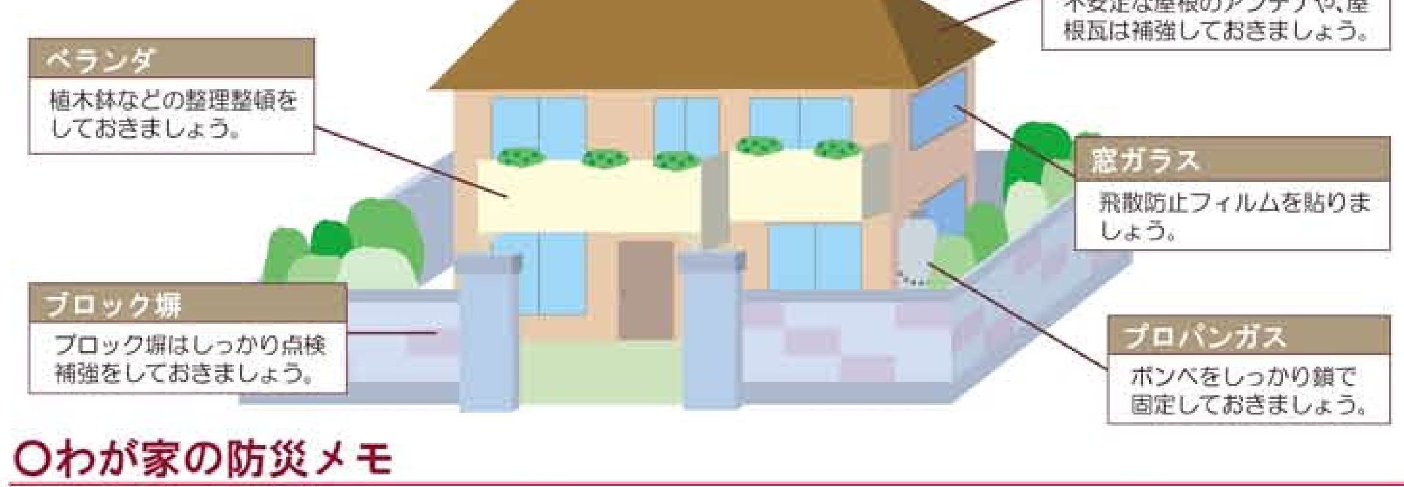
固定例



すべり止め



家の周囲の安全確認



屋根
不安定な屋根のアンテナや、屋根瓦は補強しておきましょう。

ベランダ
植木鉢などの整理整頓をしておきましょう。

窓ガラス
飛散防止フィルムを貼りましょう。

ブロック塀
ブロック塀はしっかり点検補強をしておきましょう。

プロパンガス
ボンベをしっかり鎖で固定しておきましょう。

○わが家の防災メモ

	名　前	電話(会社・学校・携帯)	メ　モ
家族・親戚などの連絡先			

メモ欄（その他連絡事項、避難所への行き方などを記入しておきましょう）

仙北市地震防災マップ（発行：平成23年1月）　仙北市役所　〒014-1298 秋田県仙北市田沢湖生保内字宮ノ後30

■耐震診断問診表

※この診断の対象としている住宅は、１～２階建ての一戸建て木造住宅（在来軸組構法、枠組壁工法〈ツーバイフォー工法〉）などで店舗・事務所等を併用する住宅を含みます。

問診１～１０にある該当項目の評点を、評点の口欄に記入して下さい。（例えば、問診１の場合、ご自宅を新築したのが１９８５年でしたら、評点１となり、評点の口欄に１と書込みます）

START
さあはじめよう!

監修 国土交通省住宅局/編集 財団法人 日本建築防災協会 「誰でもできるわが家の耐震診断」より抜粋

問診 1　建てたのはいつ頃ですか?

項目	評点
建てたのは1981年 6月以降	1
建てたのは1981年 5月以前	0
よく分からない	0

評点

以前
1981年 5月
1981年 6月
以降

説明　1981年 6月に建築基準法が改正され、耐震基準が強化されました。
1995年阪神淡路大震災において、1981年 以降建てられた建物の被害が少なかったことが報告されています。

問診 2　いままでに大きな災害に見舞われたことはありますか?

項目	評点
大きな災害に見舞われたことがない	1
床下浸水・床上浸水・火災・車の突入事故・大地震・崖上隣地の崩落などの災害に遭遇した	0
よく分からない	0

評点

説明　ご自宅が長い風雪のなかで、床下浸水・床上浸水・火災・車の突入事故・大地震・崖上隣地の崩落などの災害に遭遇し、わずかな修復だけで耐えてきたとしたならば、外見では分からないダメージを蓄積している可能性があります。この場合専門家による詳しい調査が必要です。

問診 3　増築について

項目	評点
増築していない。または、建築確認など必要な手続きをして増築を行った	1
必要な手続きを省略して増築し、または増築を2回以上繰り返している。増築時、壁や柱を一部撤去するなどした	0
よく分からない	0

評点

説明　一般的に新築してから15年以上経過すれば増築を行う事例が多いのが事実ですが、その増築時、既存部の適切な補修・改修、増築部との接合をきちんと行っているかどうかがポイントです。

問診 4　傷み具合や補修・改修について

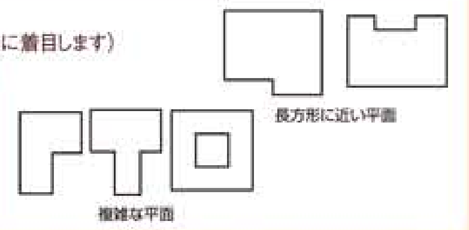
項目	評点
傷んだところは無い。または、傷んだところはその都度補修している健全であると思う	1
老朽化している。腐ったり白蟻の被害など不都合が発生している	0
よく分からない	0

評点

説明　お住いになっている経験から、建物全体を見渡して判断して下さい。屋根の棟・軒先が波打っている、柱や床が傾いている、建具の建付けが悪くなったら老朽化と判断します。また、土台をドライバー等の器具で突いてみて「ガサガサ」となっていれば腐ったり白蟻の被害にあっています。とくに建物の北側と風呂場廻りは念入りに調べましょう。白蟻は、梅雨時に羽蟻が集団で飛び立ったかどうかも判断材料になります。

問診 5　建物の平面はどのような形ですか?

（1階の平面形状に着目します）



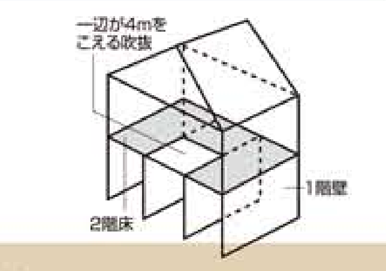
項目	評点
どちらかというと長方形に近い平面	1
どちらかというとLの字・Tの字など複雑な平面	0
よく分からない	0

評点

説明　整形な建物は欠点が少なく、地震に対して建物が強い形であることはよく知られています。反対に不整形な建物は地震に比較的弱い形です。そこでまず、ご自宅の1階平面形が大まかに見て、長方形もしくは長方形と見なせるか、L字型・コの字型等複雑な平面になっているか選びとって下さい。現実の建物は凸凹が多く判断に迷うところですが　ア)約91cm(3尺)以下の凸凹は無視しましょう。　イ)出窓・突出したバルコニー・柱 付物干しバルコニーなどは無視します。

問診 6　大きな吹き抜けがありますか?

（1辺の長さが4.0m以上かどうかに着目します）



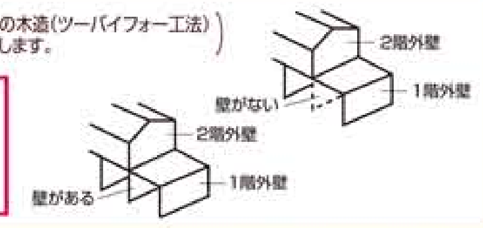
項目	評点
一辺が4m以上の大きな吹抜はない	1
一辺が4m以上の大きな吹抜がある	0
よく分からない	0

評点

説明　外見は形の整っている建物でも大きな吹抜があると、地震時に建物をゆがめる恐れがあります。
ここでいう大きな吹抜とは一辺が4m(2間)をこえる吹抜をいいます。これより小さな吹抜はないものと扱います。

問診 7　1階と2階の壁面が一致しますか?

（ご自宅が枠組壁工法の木造(ツーバイフォー工法)なら、ここの評点1とします。）



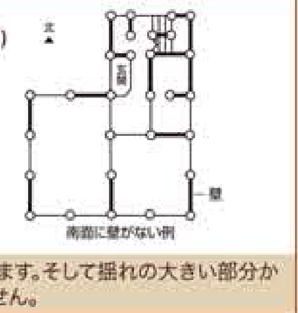
項目	評点
2階外壁の直下に1階の内壁または外壁があるまたは、平屋建である	1
2階外壁の直下に1階の内壁または外壁がない	0
よく分からない	0

評点

説明　2階の壁面と1階の壁面が一致していれば、2階の地震力はスムーズに1階壁に流れます。2階壁面の直下に1階壁面がなければ、床を介して2階の地震力が1階壁に流れることとなり、床面に大きな負荷がかかります。大地震時には床から壊れる恐れがあります。
枠組壁工法の木造(ツーバイフォー工法)は床の耐力が大きいため、2階壁面の直下に1階壁面がなくても、評点1とします。

問診 8　壁の配置はバランスがとれていますか?

（1階部分の外壁に着目します）

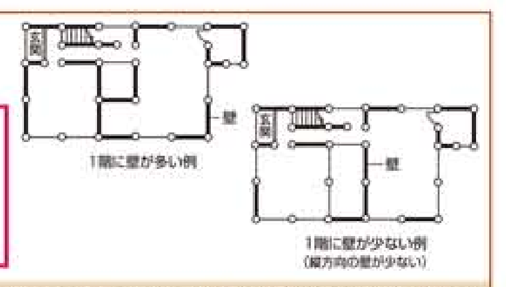


項目	評点
1階外壁の東西南北どの面にも壁がある	1
1階外壁の東西南北各面の内、壁が全くない面がある	0
よく分からない	0

評点

説明　壁の配置が片寄っていると、同じ木造住宅の中でも壁の多い部分は揺れが小さく、壁の少ない部分は揺れが大きくなります。そして揺れの大きい部分から先に壊れていきます。ここでいう壁とは約91cm(3尺)以上の幅を持つ壁です。せまい幅の壁はここでは壁とみなしません。

問診 9　屋根葺材と壁の多さは?

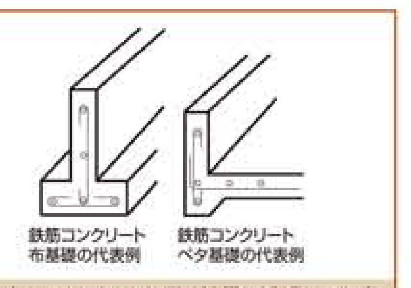


項目	評点
瓦など比較的重い屋根葺材であるが、1階に壁が多い または、スレート・鉄板葺・銅板葺など比較的軽い屋根葺材である	1
和瓦・洋瓦など比較的重い屋根葺材で、1階に壁が少ない	0
よく分からない	0

評点

説明　瓦は優れた屋根葺材のひとつです。しかし、やや重いため採用する建物ではそれに応じた耐力が必要です。耐力の大きさは概ね壁の多さに比例しますので、ご自宅は壁が多い方かどうか判断して下さい。

問診 10　どのような基礎ですか?


鉄筋コンクリート布基礎の代表例
鉄筋コンクリートベタ基礎の代表例

項目	評点
鉄筋コンクリートの布（ぬの）基礎またはベタ基礎・杭基礎	1
その他の基礎	0
よく分からない	0

評点

説明　鉄筋コンクリートによる布基礎・ベタ基礎・杭基礎のような堅固な基礎は、その他の基礎と比べて同じ地盤に建っていても、また同じ地震に遭遇しても丈夫です。改めてご自宅の基礎の種別を見直して下さい。

判定　問診1～10の評点を合計します

評点合計

合計は何点になりましたか?

評点の合計		判定・今後の対策
10点	➡	ひとまず安心ですが、念のため専門家に診てもらいましょう
8～9点	➡	専門家に診てもらいましょう
7点以下	➡	心配ですので、早めに専門家に診てもらいましょう

※ご注意）この診断では地盤については考慮していませんので、ご自宅が立地している地盤の影響については専門家におたずねください。

■地震時の心得②

○地震による火災を防ぐために

火災が発生した場合は消火器などを使い、初期消火に努めましょう。まず、周囲に「早く知らせ」、小さい火事のうちに「早く消し」、天井まで火が燃え広がったら「早く逃げましょう」。防災訓練などでは、消火器の使い方を練習しておきましょう。

〔消火器がない場合の火元別初期消火方法〕

油なべ
水をかけてはいけません。毛布や大きめのタオルをぬらして、火の手前からなべ全体にかぶせ、空気を遮断します。

石油ストーブ
上から一気に水をかけます。灯油がこぼれていたら毛布で覆ってから水をかけます。

衣類
転げまわって火を消します。髪の毛の場合は、頭からタオルなどの布をかぶります。

電気製品
感電しないように、コンセントを抜いてから消火します。

カーテン・ふすま
天井に火が燃え広がる前に、水や消火器で消します。また、カーテンは引きちぎり、ふすまは倒して消火します。

風呂場（ガス式）
ガスの元栓を閉め、火の勢いが強くならないように扉を徐々に開けて消火します。

〔地震保険について〕

地震保険は地震や噴火、津波を原因とする火災、損壊、埋没または流失による損害を補償する地震災害専用の保険です。地震保険は、火災保険に付帯する方式での契約となり、火災保険への加入が前提となります。詳しくは、各損害保険会社の相談窓口または代理店にご相談ください。

○応急手当

地震時に多数の人がけがをした場合は、救急隊による救護が望めないことも考えられます。そのような事態に備え、適切な応急手当の方法を身につけておきましょう。

出血したとき

- 傷口にガーゼや布を直接当てて、強く圧迫します。
- 手足は心臓より高い位置に上げると血が止まりやすくなります。
- 止血ができない場合は、傷口から心臓に近いところを、包帯などで固く結び圧迫します。

骨折したとき

- 動かさないようにし、傷があれば止血・消毒します。
- 添え木は身近なものを代用し、骨折部分の上下の関節を２カ所以上結んで固定します。

やけどをしたとき

- やけどをしたところをすばやく水で冷やします。痛みや熱を感じなくなるまで充分冷やします。
- 服を着ている場合は、そのまま服の上から水をかけて冷やします。
- 広い範囲にやけどをした場合は、ホースやバケツなどで水をかけるか、浴槽の水につかって冷やします。